

川口町からみた 防災集団移転と地域再生の歩み

NPO法人くらしサポート越後川口 理事
元川口町職員・元川口地域復興支援員
星野 晃男

自己紹介

昭和51年4月～平成20年3月 旧川口町職員

平成14年4月～ 企画商工課勤務(総合計画・過疎計画、
商工観光・交流、地域振興担当)

平成16年10月～ 中越地震発生後、震災復興計画策定及び
防災集団移転、集落再生・復興に携わる

平成20年5月～平成25年3月

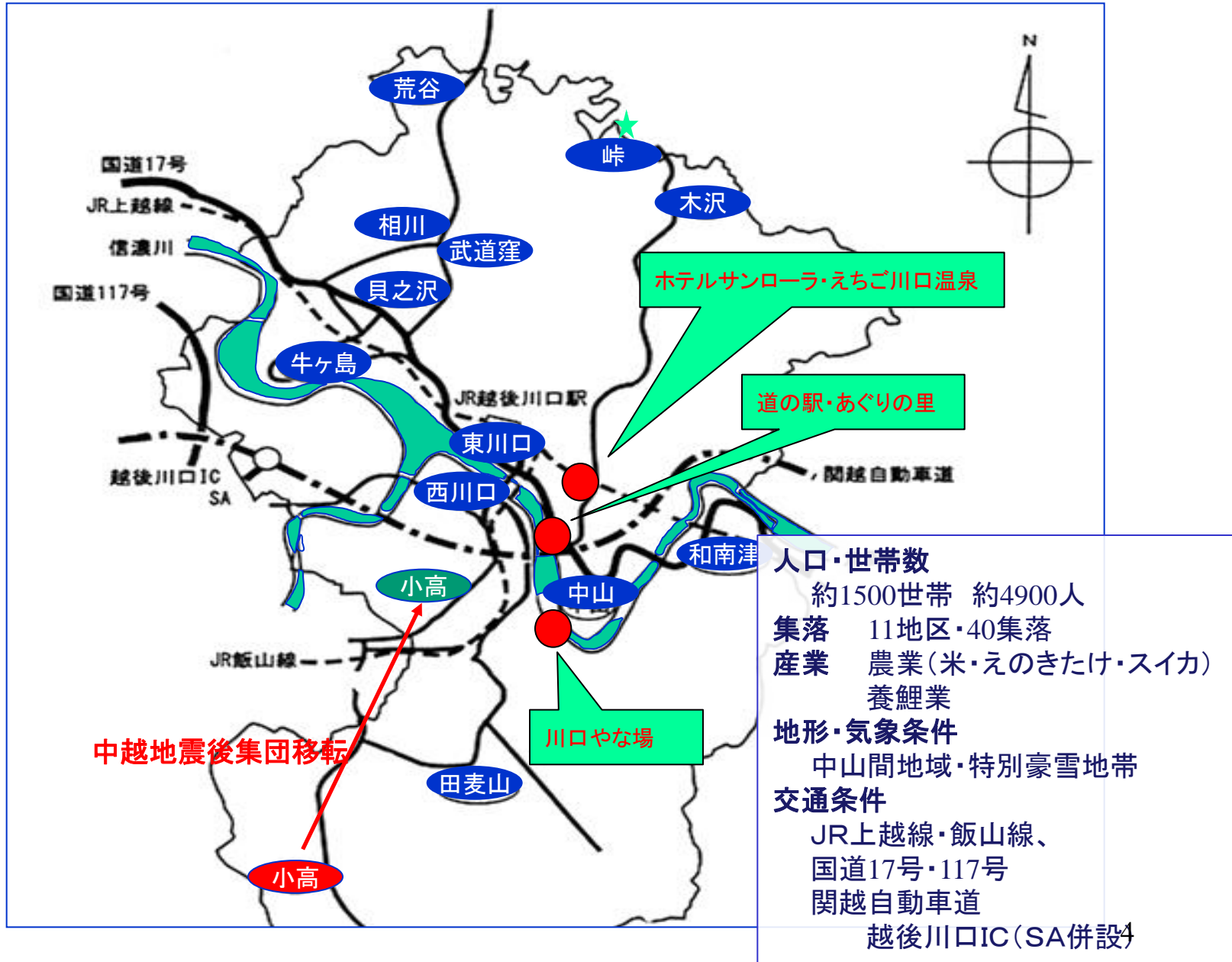
地域復興支援員として集落再生・復興に携わる

平成23年10月～

NPOくらしサポート越後川口設立、理事就任

平成25年4月～ 東川口町会会長就任

川口地域の概要



小高集落の概要

【小高地区位置図】



- 川口町の中心部から南へ5km、最南部の集落
- 50年以上にわたり運動会を継続
- 川口町指定無形文化財「小高棒踊り」を継承
- S56年5月 大規模な地すべり災害で被災
- 中越地震当時、25世帯103人が居住



無形文化財 小高棒踊り

小高集落の集団移転の経緯

10月23日17時56分 新潟県中越地震発生



相川川上流に大規模な土砂崩れ発生 ⇒ 河道閉塞、決壊のおそれ



地震発生から3日後、全世帯が田麦山小学校に避難



○地震発生から1ヶ月後(11月23日)

小高集落が集団移転を町に要望

【要因】

相川川上流に大規模な土砂崩れダムの発生
過疎化が進行する中、子供たちの将来への不安

集団移転における留意点

- ・住民の意向を尊重、合意を得ながら事業を推進
- ・自力再建困難世帯への配慮

小高集落固有の文化・伝統、コミュニティの維持・継承
⇒ 全世帯が同じ場所に移転

移転地の条件（適地）

- ・旧小高集落との距離(農業の継続)
- ・移転先の集落に溶け込まない ⇒ 小高集落の独自性の発揮
⇒ 隣接集落との融和

H17年1月～

懇談会の開催、アンケート・個別面談による意向調査



●移転規模の決定

- ・**集団移転**(防災集団移転促進事業) **19世帯81人**
 - 自力再建 15世帯 (その後1世帯が離脱)
 - 公営住宅入居 4世帯 (小規模改良住宅を整備)
- ・**個別移転**(がけ地近接等危険住宅移転事業) **5世帯21人**



「小高地区防災集団移転促進事業」

H17年秋に着工、19年3月に完了

移転地土地利用図



集会施設



小規模改良住宅



移転後に訪れた苦難

◎ 集団移転の目的

移転地で小高独自のコミュニティ、伝統・文化の維持・継承

※ 現実には

- ・ 集団移転の経過の中で複雑な住民感情が交錯
- ・ 移転を契機に世帯数がさらに減少(25戸⇒18戸)



集落コミュニティの維持・継承に危機

◎ 集団移転後のテーマ

住み続けられる地域を創りあげるため、コミュニティの再生、活性化を果たすまで集団移転は終わらない



団結力を取り戻すための住民活動を起こす

集落再生・復興に向けた話し合い

○中間支援組織の支援を得て集落再生ワークショップ開催（H19年6月～）

- ・女性・お年寄り・若者も参加
- ・住民の思い・ニーズや集落に対する誇り・愛着を引き出す



■住民の最大の関心事 = 集落再生・復興の核

運動会、薬師堂の早期再建、小高棒踊り、移転地周辺の活用

○移転地周辺エリア活用ワークショップ（19年秋～20年3月）



◎50年以上続く集落総出の大運動会



◎住民の心のよりどころ薬師堂(薬師様)



薬師堂



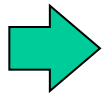
二年参りの様子
(H16年12月31日)



集会所に安置した薬師様

◎長岡市指定無形文化財「小高棒踊り」

- ・小高の地で受け継がれてきた伝統文化
- ・保存会が地元の小学生に踊りを指導、保存・継承活動を継続



**過疎化・高齢化の進行で受け継ぐ人が減少
お囃子（地方）の復活など新たな音源確保が課題**



集落再生・復興の実践活動

1 2年ぶりの運動会開催 19年9月開催(毎年開催) 小高の団結力を示す集落再生の第一歩



2 薬師堂(薬師様)再建・夏祭り復活 20年8月

- ・地縁団体「西川口小高地区会」結成、用地取得
- ・住民の心のよりどころ 薬師様を再建
- ・棒踊りを奉納、竣工を祝う夏祭りを復活



3 移転地周辺エリアの活用

●集落の木（シンボルツリー）

旧小高集落から桜の古木を移植



●花壇整備と植栽（小高花と緑の会結成）

20年4月～



●集落入口の杉林の枝落とし

納涼会開催

20年8月



●植樹・緑化活動、管理用通路整備など

ハナミズキ、オオヤマザクラ

21年～22年



4 小高棒踊り保存会の継承活動活性化 22年秋～

- ・約20年ぶりにお囃子を復活（支援者の協力）
- ・保存・継承にCD, DVDを制作
- ・長岡市内のイベントなどへの新たな出演、発表活動



DVD制作・CD収録撮影会 23年3月



地域復興支援員としての関わり

住民主体の地域活動を進めるための支援、特に活動の意欲向上につながる支援

- **ワークショップ開催、プランづくりの支援**
- **行政と住民の橋渡し役**
行政情報提供依頼、地域情報・住民の要望等伝達
- **外部支援者・協力者との連携・つなぎ役**
中間支援組織との連携（必要な支援・指導の要請）
- **活動資金の確保**
震災復興基金等補助制度の情報提供、活用
補助金申請事務、実績報告事務支援
- **実践活動支援**
写真等活動の記録
- **メディアへの情報提供**

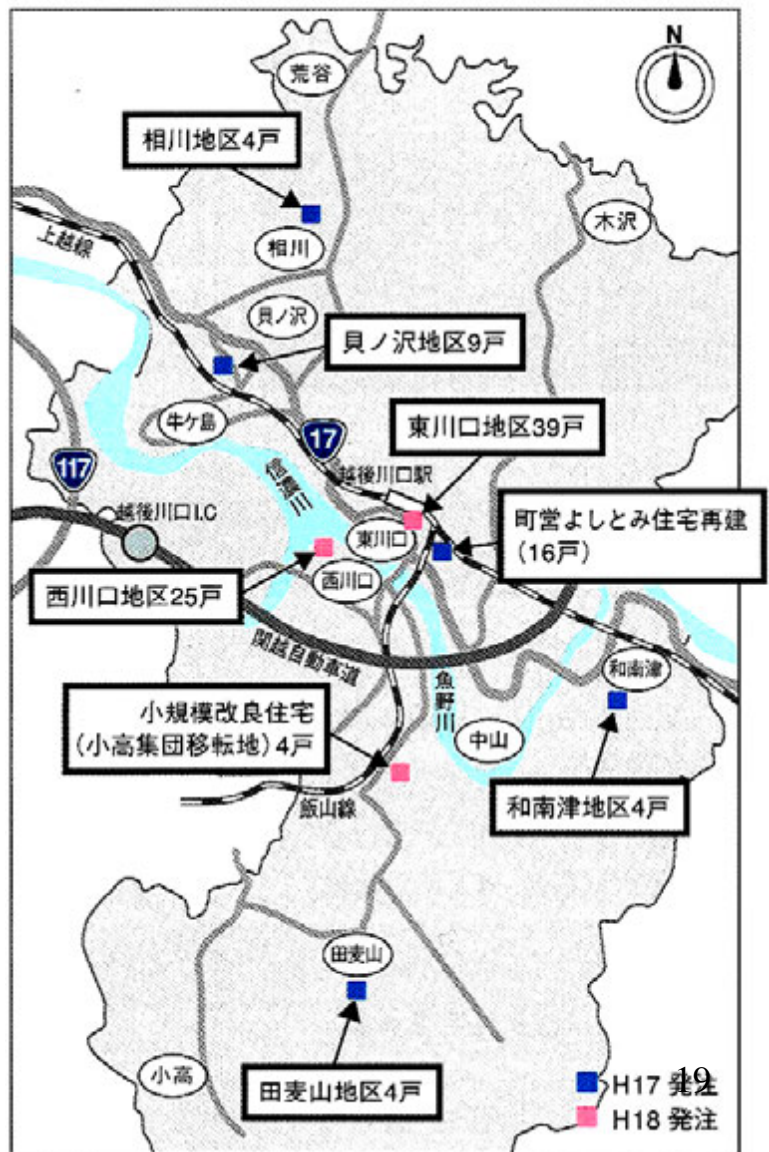
◎震災からの復旧・復興の基本方針

○コミュニティの維持・継承に配慮（分散配置）

応急仮設住宅設置状況



公営住宅整備状況



■ H17発注
■ H18発注

**各地区に分散配置。2～4戸の長屋型高床住宅を整備
（東川口地区のみ中層集合住宅を整備）**



集合住宅 東川口地区39戸



貝ノ沢地区 9戸



西川口地区25戸



田麦山地区 4戸



**小高地区 4戸⁰
（小規模改良住宅）**